

乃木神社に詣る人

日本近信
乃木神社に詣る人々

遺烈を慕ふ人々

九月の十三日明治天皇の御靈験發引

の號砲と共に大御跡を恭ひて自力せ

る乃木大將井に夫人の満五週年の忌

日である將軍夫妻の忠烈貞烈に感激

せる人々は爾來六星翁其間雨の日も

風の日も赤坂新坂町なる故郷の乃木

神社に詣る人の絶へた事はない

乃木神社に參詣する人は都ての階級

の人である社前の地上にひれ伏しつ

、嚴肅なる態度で祝詞を奏する者も

あれは社前に供物を上げて伏し拜む

人もある赤坂の尺八指南師南山某氏

の如きは元軍籍にあつた關係もあら

うがうの不具の身を以て毎月一回乃

木社に詣て、遺靈を慰むるべく悲壯

沈痛な尺八の哀音を奏づるさうであ

る

更に又詩歌を社前に獻じて三拜して

行く人もあれば客字と記名せる知冊

に筆蹟麗はしく認めたる歌一首

「位やまのぼる高嶺に月さりて

さやかに見ゆるのきのひども

と詠じて感慨無量のねもゝちにて

立ち去るものもあつた又今回の祭を

前に控へての思ひ出として神奈川か

ら参詣に出掛けた土井氏の如きは一

紙片に

「大君の御供なられし武士の

五年あとの秋の此日を」

といふ一首を認めて神前に納して熱

心に祈禱して去つた又三周年祭には

忠腸義氣萬夫の雄、仁智兼せて

人風を慕ふ、百戦未だ曾て一跌を

聞きかず、謬論狂て比す美特公」

といふ詩を獻じて去つた人もあつた

數多の参詣者中でも殊に學生の團體

が多い將軍の自刃の跡は數百十言の

教訓よりは數十倍増した權威ある

大教訓を與へることは勿論である

岡正清、福村圭などいふ青年は苦學

にして多忙なるにも拘らず神前に

真心からの禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た岡正清、福村圭などいふ青年は苦學

をして多忙なるにも拘らず神前に

真心からの禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝邊の仕立職某の如きは之も

激然なる乃木崇拜者で暇さへあれば

から来たのですが妻を左右に置いて

送る云ふので到頭嫁にやりました

が案外二人の妻がある上に先妻の遺

眞心から

の禮拜を捧げた後堂宇を訪

ふて其の財産を傾けて寄附を申入れ

た所謂貧者の一燈として美しい心掛

である芝

三人心中

教員上の青流

一
四
二

といふ事です
非難も世間にはあるが兎に角表面丈
耀つたので電
けでも
ましたが「なんの
は娘を訪ねて
來た以上に前
もない宿泊
れすに
な次第で誠に
ませぬ」云々^{まことに}
死したる女は
いわへるなる
都樓に前借三
都樓に前借三
ひと抱へて抱
へはどの通知
造は「若し
ら忠慶さんか
らひ居たり
いひ居題
件問題
白島義勇等
魂記念碑は或
原小路の二箇
原小路の二箇
典を執行し來
らざるより昨
を動機として
動機として
内記念碑地域
題起りしが管
し爲め是等の
間に訴訟問題
藏、秀島浩隆
に與みし除族
餘名が鍋島家
興社にて共有
爲す時期まで
三名に管理を
氏相續人生田
同出資八百圓
話をする
ミス君が桑港
附近に壯大に
に至るべしと
相し
相し
主張し十數
側の勝訴とな
は合併案なれ
は合併案なれ
べく新記念碑
提起して人生の
醜態業婦の救
果には色々の

2 ブラジル語講習録

- b オーラス ソン
Que horas são?
何時ですか

a ノーブル ファルタム アインテ シンコ ミヌートス パラ
No meu relogio, faltam vinte e cinco minutos para
as nove.

私の時計では九時に二十五分前です

b ノーブル エスター アヤアンターダ シンコ ミヌートス
O meu está adiantada cinco minutos.

私は五分進んで居ます

a オーラス オ セニヨール ブエ ア シダーデ
A que horas o senhor vai a cidade?

何時に貴方は町に御出でになりますか

b オーラス オ セニヨール ブエ オーラス エン ポント エ
Vou todos os dias às nove horas em ponto e
voltou às quatro da tarde, mais ou menos.

毎日正九時に参りましてかれこれ午後四時に歸ります

a エントン アインダ フルタ カン クアルト テ オーラ ノン
Então, ainda falta um quarto de hora, não é?
うれでは未だ十五分ありますね—

b オーラス オ セニヨール アルモーサ
A que hora o senhor almoça?

何時に貴方は朝飯を食べますか

a オーラス オ セニヨール アルモーサ
Almoço a meia-hora depois do meio-dia e janto às
seis e meia.

十二時半に朝飯を食ひ六時半に夕食します

モーラ ボンティロ アルガリスモ モストラドール セグンド ミヌート
mola ponteiro algarismo mostrador segundo minuto

彈條(ヒヤ) 針 數字 時計の面 秒 分
デスペルタドール レロージオデ パレツテ エ ウマ オーラ ソン セイス エ ピンテ
despertador relogio de parede E' uma hora São seis e vinte

目醒時計 柱時計 一時です 六時二十分です

ブラジル証券業録

第五課 (Lição Quinta)

- アキーノ エスター ウン カフェエイロ
1. Aqui está um cafeeiro.
此處に珈琲の木があります

レパーレン チーレ ベン
2. Reparem nelle bem.
能くうれを御覽なさい

エスター カレガード デ カфеー
3. Está carregado de café.
珈琲の生りが宜しくあります

カントス フルートス テラー エステ カフェエイロ
4. Quantos fructos terá este cafeeiro?
此のコーヒーの木には幾何實がありませうか

ダントス ケア ジエンテ オス ノン ポーデ コンタール
5. Tantos que a gente os não pôde contar.
人々が勘定の出来ぬ程うんなにあります

エウ ベンツ ケ テン マイス デ シンコ リトロス デ フルートス
6. Eu penso que tem mais de cinco litros de fructos.
私は五リットル以上の果實があると思ひます

エステ アンノ テーモス メノス カフェー ケ オ アンノ バーサード
7. Este anno temos menos café que o anno passado,
マヌ テーモス マイス オ アンノ ケ ブエン
mas teremos mais o anno que vem.
今年は昨年よりも珈琲の實は少なう御座いますが然し來年はモ
ト餘計なりませう

オ カフェエイロ ダーセ ノス バイセス ケンテス ソメンテ コモ カ
8. O cafeeiro dá-se nos paizes quentes, sómente, como
アラジル ボル エゼンブロ
Brazil, por exemplo.
コーヒーの木は例へばブラジルの様な暑い國にのみ出來ます

マシモ エ ミステール セメアル パラ コリュール
Maximo: E' mister semear para colher.
金言 收穫する爲めには種を蒔く事が肝腫です

三人旅

四

三

(三) 午前十一時十分に、待ちに待つたタニアエン驛に着いた。辨當はこゑをもんでゐるが、籠を提げた一人の男が遣つて來た、之を眺めた僕等皆申合せた如くにこゝへ顔で迎えたのであつた、就中茅原さんは、魚ご御飯があつたので、之は好物と大喜び、多羅間さんは德利の顔見へたので莞爾り笑はれたのが、最も嬉しさうに視へた。

遅い様でも速いものは汽車だ、三笑い興じて辨當を使つてゐる間に五哩走つてゐた、此の邊の兩沿岸一體に沖縄縣人の殖民地とも云ふ葉菴家が、あちらこちらに見へて、五哩海岸を離れて、山と森と森との間にはいつた汽車は、薩摩薯が栽られ、小ぢんまりとしまったが、アンナ、ディアスに着ど、北島ドクターが多數の沖縄縣人に送られて乗車されたので、今迄寂寥が俄かに一變して賑やかになた、ドクターの此の驛で乗車のこは、僕等にまで振舞つたり、沖縄縣人のかつたが、沙翁の戯劇に着ど、沙翁の戯劇を説明したりして、停車分間に上を下への大混雜を演じたは、僕等にとつて嬉しくも、奇異も感ぜられたのであつた。

新たに北島ドクターを加へた車中ドクター専門の衛生談やら、十二腸虫談やら、風土病の話やらで、一分時は賑やつたが、また暫くにして元の寂寥に復つた、其の中にもは止度なく降る、濕ほい空氣は明た窓から吹き込むので、僕は何時間にか寒さに冒され、氣管を傷めゐた、午後五時近くデユキア驛にいた頃は、氣分甚だ勝れないのではホテルに行つたら一と休み休まう思つてゐたら、豈計らんや名稱こ

「ダチコフ」は、帝の側近で、常に皇帝のそばにいて、皇帝の命令を執行する役目を担っていた。彼は、帝の忠誠と忠実さで知られ、帝の信頼を得ていた。しかし、彼の行動が誤解され、帝の命に危機を感じた者たちによって殺害された。この事件は、帝の死因として挙げられることが多い。

歩しか離れても騒がなれず不可能。其極度の緊張がかかるかを過ごしに見れば高き明るい朝が現れる。居た皇帝は、見ゆる如く冷靜められたが、あつた皇帝の心ははるやうにこの時恰に入つて來て、そのことを謝ったことを語り聽者に心したといふ氣分で語る。一句一節何事も十分に理を出すことが出来る。兩手を卓子に心から抜く。皇弟ミハエル御蔭でイヤうだらうに理路整然と語る。窮境に處するが如きが出來る。帝が立つてゐるが、彼の格調が如何なるかが、多少元舊の如きふのが、ついである時に體を傾けてゐたのを要する。帝が立つてゐるが、彼の格調が如何なるかが、多少元舊のことだ。

ては、本意の如くに反した政體を嘗み、國民の氣氛を統治せんと試みた處が皇帝の御文句があつて、實は氣の毒を擰へむことを本字の末に十一時四十分に對して、遂に其の詔書を署する。當時は氣の毒を擰へむことを本字の末に十一時四十分に對して、遂に其の詔書を署する。

露國ロマハフ皇家

等にまで振舞つたり、沖繩縣人發の模様を説明したりして、停車十間に上を下への大混雑を演じたの間に、僕等にとつて嬉しくも、奇異に感せられたのであつた。

たに北島ドクターを加へた車中は、クター専門の衛生談やら、十二支虫談やら、風土病の話やら、大半は一時は賑やつたが、また暫くにし元の寂寥に復つた、其の中にも雨止度なく降る、温ぼい空氣は明い窓から吹き込むので、僕は何時のか塞さに冒され、氣管を傷めていた、午後五時近くデユキア驛に着た頃は、氣分甚だ勝れないで、テルに行つたら一と休み休まうとつてゐたら、豈計らんや名稱こう

▲三百年の帝業空し
露國皇帝ニコラス二世がブスコフ停車場で退位の詔書に署名したのは本年三月十五日のことであつた當時巴里「タン」紙の通信員エム・シユウルデイス氏は親しくこの記念すべき光景を目撃して興味ある記事を「タン」紙に掲げたロマノ夫家三百年の帝業を一朝にして空うした大事件が如何にも無難作に出来上つた處を見る露國革命の根底極めて深く暴發の機方に熟したことが明に分るのである

皇帝の顔の見
じむたがるの
のヤラ片附け
富面の難闇を
至太子に譲り
するの外ない
のつれども
が別れたくな
と別れたくな
がこの事を述
將軍は自分の
事は既に定ま
た。今度は皇
身振り、いづ
度や言ふこと
間明であつた
めて重大ださ
れてゐたから

なんぢ境に
を十分に理
兩手を卓子
のうねやう伏
御陰でイヤ
ることが出
切り抜くる
皇弟ミハエ
といふのが
べてある時
方に體を傾
つてゐたの
帝が立つて
がクチコフ
グチコフの
いふことに

書き取つたが、どうも書かれてはならなかつたのである。そこで豫期して、「退位の詔書を立法會議に列席して、一致して、この希望を述べて、次に「且つ人の意なき協調を訂正して、これを快諾されられられた。時に立派に書いてある」として、立派に書いてある。

實は氣の毒
て
反した政體
旨中に「朕は
する國民の
國家を統治せ
ふ文句があ
民に對して證
證を與へむ
附け加へて是
た處が皇帝
神明に誓つ
を遂げむこと
之を本字の末
に十一時四十

ブラジル語講習録

註解 2. Reparar は認める。意を留めるの意。reparem は汝等皆お達とく御願なさいと命令する語。

3. 斯の如き場合 *carregado* の次に de を附すものとする。但し此の対応の掛はよくないので居る。Esta laramieira está carregada.

4. Fructos の c は響かず。此語は果實にして菓物は
fructo である。Ouento(飴の)は女性の言葉には quanta, quantas となる。

5. Tantos は次に来る可き fructos を略せるものにして「うんなど澤山の」の意。Tanto.....queは何々程ソンナニ澤山と言ふ時に用ふ。例。Eu tenho tantos livros que elle. 私は彼の人程本を持つて居る。

6. *Penso que* の *que* は「……と云ふ事を」の意あり。數に就いてより以上と言ふには *mais de* と言ふ。例へば六ヶ以上は

7. Menos は mais の反意語。何々より餘計又は以上と言ふには moins.....que と言ふ。此の反対は menos.....que。例へば此

本はあれよりも新しいは Este livro é mais novo que aquelle. の如し。
今年 este anno. 昨年 o anuo passado. 來年 o anno que vem.(来る所の年)
Teremos 吾が持ちませう。Temos 吾々が持らます。何れも ter(持つ)の

8. Dá-se は與わらるゝなれど茲に於ては生ひ立つの意。Quente は暑き。Frio 寒き。Sómente 唯。Por exemplo は例へば

ある。 ブラシップ

ブラジル語講習録

會話 (コンペルサソン、Conversação)

- (Conversação)

Tempo (時に就いて) 1.

a オ セニヨール デン オ レロージオ
a O senhor tem o relojio?

貴方は時計がありますか

b シン テーニョ サン デ オーロ
b Sim, tenho um de ouro.

はい。金製のものを一つ持つて居ます

a デ ケ メタール エ オ セウ
a De que metal é o seu?

貴方のは何と云ふ金属のものですか

b メウ レロージオ エ デ プラータ エ デ ザス タンパス
b Meu relógio é de prata e de duas tampas.

私の時計は銀製で兩蓋のです

a アンダ ベン
a Anda bem?

よく動きますか

b ノン セニヨール アトラーザ センプレ ケーロ マングール コンセルターロ
b Não senhor, atraza sempre; quero mandar concertoal-o.

いゝに。何時でも遅れます。直しに遣ろうと思つて居ます

a エ ブレーシーゾ ケ ア ジエンテ カレーゲ ウン レロージオ ケ レグーレ
a E' preciso que a gente carregue um relógio que regule
ベン
bem

吾々は正確に動く時計を持つて居る必要がある

b ジヤ リエ デウ コルダ
b Já lhe deu corda?

モー御巻きになりましたか

a アインダ ノン アウ ガールラ
a Ainda não, vou dar-lh'a.

まだ御巻きです。巻き上げま

婦人欄

婦人欄

ANTUNES DOS SANTOS & COMP-

AGENTES DAS COMBANHIAS

AGENTES DAS COMPAHIAS

○若狭丸

○タコマ丸
大阪商船會社定

日本郵船會社臨時船 ○若 狹 丸

アンツーネス、ドス、
サンレス會社
(Tel. No. 340) Caixa Postal 237,
Rua Libero Badaro No. 93-95

Rua Liberdade nº. 33-35
S. PAULO.

帝國總領事館
Caixa Postal 1167

地の所在地及最近停車場名
地の面積及買入地價
賃全部拂込済の上地券所有の有無
賦拂込の者は其拂込の方法及契約
合併に拂込済金額
示す
年九月

時日抄

年九月

告示

今般當館に於て在留日本人土地所有者名簿を作成候に付土地所有者は至急左記の事項を届出申上